

# 参考になった文献

## 【マネージメント】

- 『私の行き方考え方』松下幸之助  
会社に入る前の事前課題の本で、社会の発展のために働くという考え方に衝撃を受けました
- 『マネージメント』ピーター・ドラッカー  
企業の基本機能は、マーケティングとイノベーション。ドラッカーは内容のみならず、文章表現も参考になります
- 『7つの習慣』スティーブ・コビー  
2度目に読んだ時に心に響きました。自分の置かれている状況によって捉え方が変わるのでと思います
- 『マネージメントの世紀』スチュワート・クレイナー  
マネジメントの具体的な歴史を学べると共に、自分はどうしたいのかと考えるきっかけになりました
- 『経営の美学』野中郁次郎、嶋口充輝  
「日本企業の新しい型と理を求めて」の副題で、多くの日本の学者の理論が紹介されています
- 『経営の未来』ゲイリー・ハメル、ビル・ブリー  
経営管理のイノベーションについて書かれています。ベストプラクティスとしてのグーグルも議論されています
- 『リクルート 挑戦する遺伝子』日本経済新聞社  
社訓「自ら機会を創り出し、機会によって自らを変えよ」を実践していることが素晴らしいと思います

## 【戦略】

- 『ビジョナリーカンパニー①②』ジェームズ・コリンズ  
「時を告げるのではなく、時計をつくる」他、永く成功する企業の特徴が腑に落ちました
- 『競争戦略論Ⅰ』マイケル・ポーター  
比較的ボリュームが少ないのでポーター入門として読みましたが、論理的で分かりやすかったです
- 『企業参謀』大前研一  
大局的、論理的に物事を捉えることが重要だと感じました。低価格理髪店を予見されています
- 『コア・コンピタンス経営』ゲイリー・ハメル、C.K.プラハラード  
90年後半「コア・コンピタンス」というワードが流行りましたが、現代にも通じる「強み」を活かすことだと思います
- 『ストーリーとしての競争戦略』楠木健  
良い戦略はストーリーになる、賢者の盲点を衝くということが特に面白いと思いました
- 『戦略バランス・スコアカード』ロバート・キャプラン、デビッド・ノートン  
研修で知り、私のお気に入りになっているフレームワークです。時間軸含めて全体思考ができます

## 【リーダーシップ】

- 『ザ・ファシリテーター』森時彦  
小説の形になっていますが、自分が企業変革を提案する上での参考イメージになりました
- 『本物のリーダーとは何か』ウォーレン・ベニス  
ビジョンを描き、あらゆる方法で伝え、信頼の基で、創造性を発揮する。正しいリーダー像が書かれています
- 『人を伸ばす力』エドワード・デシ  
「内発的動機付け」という考え方を初めて知り、その重要性が理解できました
- 『企業変革力』ジョン・コッター  
自分の企業変革行動の中で、「危機意識を高める」など「変革の8ステップ」を参考にしました

## 【組織行動】

- 『組織の盛衰』堺屋太一  
組織というものを意識し、これを改善しなければならないと思うきっかけになりました
- 『最強組織の法則』ピーター・センガ  
「システム思考」など5つの規範が提示されています。「学習する組織」が私のマネジメントの目標になりました
- 『知識創造企業』野中郁次郎、竹内弘高  
自分達が世界に勝つためにはこの本の内容を実践しなければならないと思いました
- 『リビングカンパニー』アーリー・デ・グース  
企業を生き物と捉える発想が面白く自分の考えとも合いました
- 『組織能力の経営論』DIAMONDハート・ビジョン・ビルド編集部  
「学び続ける企業のベスト・プラクティス」の副題で、多数の学者の理論が紹介されています

## 【マーケティング】

- 『マーケティング・マネジメント』フィリップ・コトラー  
コトラーはマーケティングを広い意味で捉えています。私が全体マネジメントと定義するのとほぼ同じと思っています
- 『ザグを探せ！』マーティン・ニューマイヤー  
マーケティングに関する情報や考え方が、視覚的に分かりやすく、コトラー外にまとめられています

## 【イノベーション】

- 『イノベーションのジレンマ』クレイトン・クリステンセン  
後発でスタートする開発に携わっていた時は、この教訓とチャンスを活かさなければと思っていました
- 『技術力で勝る日本がなぜ事業で負けるのか』妹尾賢一郎  
2009年日本がIntelに負けていた時の本です。ビジネスモデル、オープン戦略、分業が既に述べられています
- 『デザイン思考が世界を変える』ティム・ブラウン  
アップルなど多数の顧客で実績のあるIDEOの社長が書いた本です。アイデア創出の一つの方法だと思います
- 『TRIZで問題解決・課題達成!! TRIZの全体像と活用法』「標準化と品質管理」2013年2月号  
webから文献にアクセスできます  
<https://www.osaka-qu.ac.jp/ohp/nakaqawa/TRIZ/ipapers/2013Papers/SO-TRIZSpecial-1302/SO-TRIZSpecialIssue-130216.htm>

## 【オペレーションズ／会計】

- 『ザ・ゴール』エリヤフ・ゴールドラット  
TOC(制約理論)を小説の形にしたもので、私の職場でも流行り、装置のボトルネック対策で実践しました
- 『トヨタ生産方式』大野耐一  
今でも世界的に認められている日本の手法を再認識するために読みました。本質的なところが書かれています
- 『稲盛和夫の実学』稲森和夫  
「アメバ経営」で有名な経営・会計手法について書かれた本です。実践は難しいと思いましたが、共感しました

## 【人/自分/ビジネススキル】

- 『問題解決プロフェッショナル』齋藤嘉則  
MECE(モレなくダブリなく)、ゼロベース思考、ロジックツリーを学び、自分の考えるベースとなっています
- 『話し方入門』D.カーネギー  
勤務していたパナソニックの朝会時に、順番で自分の所感を述べるという慣習があり、参考にしました
- 『あなたもいままでの10倍速く本が読める』ポール・シーリー  
全てを実際に使いこなすことはできませんでしたが、書いてあることの要点は参考になりました
- 『さあ、才能に目覚めよう』マーカス・バックingham、Donaldクリフトン  
弱みを克服することばかり考えていましたが、強みを伸ばすことの方が重要という考えに変わりました
- 『意志力革命』ハイク・ブルック、スマントラ・ゴシャル  
「目的意識を伴う行動」最初に読んだ時は受け止められず、2度目にやっとこれを目指そうと思うことができました
- 『このつまらない仕事を辞めたら、僕の人生は変わるのだろうか?』ポー・ブロンソン  
転職した多様な人への取材と筆者の考えが書かれています。米国で一生涯一企業の人はほほいしないそうです
- 『ハイコンセプト「新しいこと」を考え出す人の時代』ダニエル・ピンク  
6つのセンス「デザイン、物語、全体の調和、共感、遊び心、生きがい」、そういうものを追いかけていきたいです

## 【その他】

- 『良い経済学 悪い経済学』ポール・クルーグマン  
資本投下による成長と生産性のそれとは区別し、個人は後者に重点を置けば良いのだと感じました
- 『宇宙はわれわれの宇宙だけではなかった』佐藤勝彦  
宇宙についても知ることは、知識の中でも重要で、生きる意味を考えることにつながると思います
- 『WHAT IS LIFE? 生命とは何か』ポール・ナース  
遺伝子、自然淘汰など生命に関わる重要な点が平易に書かれており、生命のことを考える手がかりになりました
- 『ソフィーの世界』ヨースタイン・ゴルデル  
主要な哲学者について書かれ、欧米では重要な神について考える機会になる面白い物語だと思います
- 『哲学と宗教全史』出口治明  
世界の多くの人にとって重要な宗教の歴史の概要を知ることができ、分厚いですが読みやすい本です